

「航空教室」開催

01

6月8日、日本航空株式会社、相馬小学校にて全校児童109名に航空教室を行った。

この航空教室は、昨年10月にりんご作業の援農へ訪れた事をきっかけに、お世話になった生産者や地域の方に何か恩返しが出来ればという事から行われた。

当初はパイロットと客室乗務員が実際に小学校を訪れて説明する予定だったが、新型コロナウイルス拡大防止の為、東京にあるJALの会議室と相馬小学校をリモートでつなぎ行われた。



画面越しに手を振る小山副操縦士と河原木直子チーフ

当日は小山浩司副操縦士が飛行機が飛ぶ仕組みや離着陸迄の仕事の流れを説明し、河原木直子先任客室乗務員が機内での仕事の内容を説明した。

児童らは真剣な眼差しで聞き入り、質問の時間には多くの質問が飛び交い、とても有意義な授業になっていた。

今回司会を務めたJALの葛西恵理(ふるさとアンバサダー(青森県在住))は「どんな授業になるか不安であったが、食いつきが良くて安心した。今後もこのような機会があれば現場でやってみたい。」と話していた。



模型を使って説明するふるさとアンバサダーの葛西さん

JAL職員
摘果援農に訪れる

02

JAL職員6名が紙漕沢地区の成田祐介さんの園地にて摘果作業を行った。

当初は6月から援農に訪れる予定であったが、緊急事態宣言により中止となった。しかし、今しかできない摘果作業を覚えておきたいとのことから、緊急事態宣言解除後に訪れた。

始めに園主の成田さんから中心果を残す事や新梢には成らせない等といった作業方法が説明された。職員らは来年の摘果作業に向けて周りの職員にも見せようと、



次第に摘果作業のスピードが上がるJAL職員

ビデオカメラをまわしながら聞いていた。

職員の内2名は青森県出身の客室乗務員であり、園内に広がる津軽弁に懐かしみを感じながら作業していた。また、去年援農に訪れたパイロットの方もラジオから流れるCMの音楽や番組を久しぶりに聞き感動していた。

今回の摘果作業前には、相馬小学校6年生の児童3名が、「航空教室」の御礼を伝えるにJAL本所に訪れ、「とても貴重な勉強をすることが出来ました。コロナが収まったら飛行機に早く乗りたいです」とJAL職員に感謝を伝えていた。



JAL職員らに感謝を伝える6年生の児童



生産者らへ今年産りんご生産へ期待を語る



乗用機械により綺麗に溝が切り込まれていく



袋掛けの仕方を真剣に聞く児童ら



高さ2メートルを超える大型檻で大量捕獲を試みる

topics

令和2年産
りんご販売振り返る

03

6月16日、第三回巡回講座が各地区にて行われた。今回は常勤3名も同行し、昨年のりんご販売動向や精算について説明した。大場勉組合長は「皆さんの早期出荷のおかげで選果もスムーズに行うことができ、販売も苦戦しながらですが上手く進めることが出来ました。今年産も出荷いただきますようよろしくお願ひします」とお願ひしていた。

topics

湿田化改善へ

04

農業振興課では、管内の水田において排水不良による湿田化が見受けられることから溝切作業を開始した。

乗用溝切機で田面へ溝を入れて排水を促すことで、ムラなく地盤が固まり、刈取り作業や耕起の際の作業効率向上が見込まれる。

担当者は「水田の排水が効率よくなるよう考えながら作業し、水田の環境改善に努めたい」と意気込んでいた。

topics

摘果・袋掛け作業に
汗を流す

05

相馬小学校では6月11、29日に摘果作業と袋掛け作業を行った。

この内、袋掛け作業では園主の山内大樹さんが実際に袋を掛けながら、風で飛ばないようにしっかりと針金で止めることや破けないように優しく作業するといった注意点を話した。

児童らは女性部や保護者の方に教えてもらいながら真剣な目で取り組み、中には1人で上手に出来るようになった児童もいて、周りにいた人達を驚かせていた。

topics

サルの
被害軽減に向けて

06

農業振興課では、管内のサルによる食害や樹の枝を折られる等の被害解消に向け、大型檻の設置を行った。組立や設置には相馬ハンタークラブと弘前市役所職員等関係者15名で行われ、現在檻に対しての警戒心を解くため餌付けをしている。

他管内でこの檻を設置したところ10匹以上の捕獲が確認されたことから、管内の大量捕獲にも期待したい。